



大和市民は、これまで厚木基地における航空機騒音に悩まされてきました。

特に昭和57年に、米空母艦載機によるNLP(夜間連続離着陸訓練)が初めて行われてからは、常にその騒音と事故の恐怖にさらされています。

市では、この問題に対してさまざまな形で取り組んできました。その結果、硫黄島に代替訓練施設が完成し、NLPの大部分が同島で行われるようになりました。

しかし、航空機騒音をはじめ、基地に関する諸問題は山積しており、依然として市民生活に大きな影響を与え続けています。

今回の特集では、大和市が抱える厚木基地の問題について、現状と解決に向けた取り組みを取り上げます。

# 基地

## 厚木基地と

### 艦載機騒音

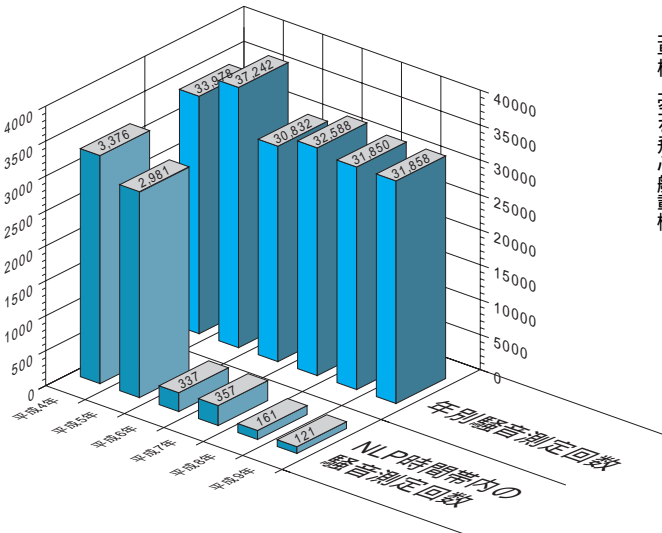
厚木基地の騒音問題は、米空母が、事実上の母港である横須賀に入港するたび、その艦載機が厚木基地へ補給・修理などのため飛来することによって顕著になります。

入港中は、この艦載機が厚木基地を拠点として外洋などで訓練飛行をするために離発着が多くなるなど艦載機による騒音被害が拡大します。

昨年夏、この米空母の交替が今月中旬に実施されると報道されたため、市では従来から訴えてきた「横須賀母港化返上」に加え、騒音問題を継続させることになる空母交替は容認できないと関係機関に強く訴えています。



空母インディペンデンス



上草柳上空を飛ぶ艦載機



安全で  
静かな空を  
めざして



# 大和市と厚木

## NLP

### （夜間連続離着陸訓練）

空母の出港が近づく、厚木基地から艦載機が空母に帰艦する準備のため滑走路を空母の甲板に見立て、離着陸訓練を実施します。

夜間の着艦技術の維持・向上と称して、夜間連続離着陸訓練が行われると、日中の飛行騒音よりもさらに市民に恐怖を与え、睡眠の妨げにもなります。

このNLPの中止、移転などに、市・市議会・市民一体となって取り組み、平成5年4月、硫黄島訓練施設が完成し、現在その90%

以上が硫黄島で実施されるようになり  
ました。

その後、硫黄島での100%実施に向けて再三要請活動を続けてきましたが今年1月に実施されたNLPは、米軍側の事情を理由に、残念ながら硫黄島



NLPによる艦載機の軌跡

では行われず、厚木基地をはじめ、三沢、横田、岩国基地で分散して実施されました。

市などの働きかけにより近年、硫黄島でのNLP実施比率が高まる中、一方で、今後も硫黄島の天候などを理由に、厚木基地でNLPを実施する可能性は依然残っているのです。

### 基地開放日

### （オープンハウス）の曲技飛行

また、忘れてならないのが基地の開放日に行われる「デモンストレーションフライト（曲技飛行）」。「このデモンストレーションフライトは、人口が密集した民家の真上で行われることから激しい騒音だけでなく墜落への恐怖感を近隣住民に与え続けます。」

そのため、市では基地や国にこれまで再三にわたりその中止を要請してきましたが、今後とも更に強く中止に向け関係機関に働きかけていきます。



昨年のデモンストレーションフライト環境管理センター屋上から

### 大和市基地対策協議会

「大和市基地対策協議会」は昭和37年、市民各層の代表者をもって、厚木基地の所在及び運用等によって生ずる被害の対策について協議し、その具体的解決につき強力に推進すること」を目的に発足しました。協議会では、基地に関わる諸問題について協議・検討をし、その解決に向けて国や関係機関に要請を行ってきました。昨年从今年にかけて基地開放日の入場者数調査やアンケート調査の実施、また基地問題の実状を訴えるPRビデオの作製、さらには軍事アナリストの小川和久氏を招いての基地問題フォーラムの開催など多くの事業を展開し、基地問題に取り組んでいます。





これまで何度か「硫黄島」という言葉が出てきましたが、皆さんは「硫黄島」をご存じですか？

なかなか知る機会のない「硫黄島」についてわかりやすく説明しながら、平成9年に作成した「硫黄島活用案」をご紹介します。

**Q1** 硫黄島はどこにあるのですか。また、どのようなところですか。

**A** 厚木基地から南へ1200km余りの小笠原諸島にあります。この硫黄島には、海上自衛隊が駐屯し、米海軍空母の艦載機が、NLP（夜間連続離着陸訓練）を行うための滑走路や管制塔などの訓練施設があります。民間人は現在住んでいません。

**Q2** どのようにして硫黄島訓練施設が実現したのですか。

**A** 厚木基地での米軍艦載機による激し

いNLPが、周辺住民に大きな騒音被害を与えていたため、市、議会、市民がその騒音の解消に向け一体となって取り組んだ結果、国が平成5年4月に167億円の費用をかけ、この硫黄島に訓練施設を整備し、米軍に提供しました。

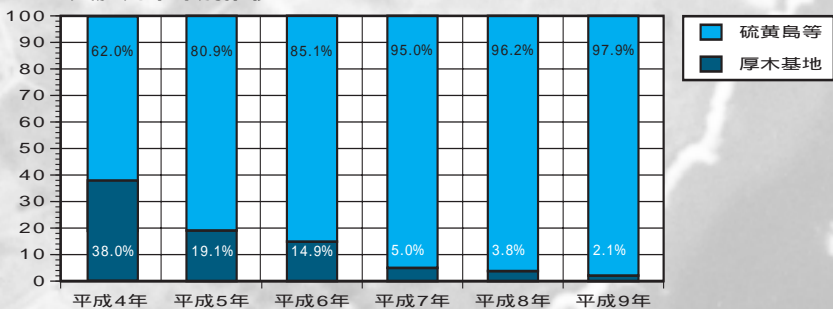
**Q3** 現在のNLPの実施状況はどのようになっていますか。

**A** 硫黄島の訓練施設ができた結果、近年では一部の例外はありますが、NLPの大部分が硫黄島で実施されるようになっていきます。

NLP硫黄島・厚木基地実施回数比率推移

	年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年
厚木基地	回数	1,748	1,673	271	278	137	91
	比率%	38.0	19.1	14.9	5.0	3.8	2.1
硫黄島等	回数	2,846	7,098	1,542	5,237	3,432	4,337
	比率%	62.0	80.9	85.1	95.0	96.2	97.9
合計	回数	4,594	8,771	1,813	5,515	3,569	4,428

NLP実施比率年別推移



**Q5** 「硫黄島活用案」はどうしてできたのですか。

**A** 米軍や国に、NLPの全面移転を訴えてきた土屋市長が、平成8年8月にNLPの視察のために硫黄島を訪問し、現地を巡った結果、これまで米軍がNLPの全面移転は困難としてあげてきた障害項目が、決して解決できないものではないと確信しました。そこで、米軍との交渉の材料として、その障害項目を一つひとつ具体的に検討し、解決の方策をまとめたものがこの「硫黄島活用案」です。当初、「硫黄島活用(私)案」として、市長の個人的な提案として作成されましたがその後、各方面から大和市の公式の案として取り組むべきという意見があり、硫黄島活用案ができました。

**Q6** 「硫黄島活用案」はどのようなことを提案しているのですか。

**A** 米軍が硫黄島にNLPを全面移転できないとしている障害項目などの解決策を提案してい

**Q4** どうしていまだにNLPの全部が硫黄島で実施されないのですか。

**A** 米軍は、NLPのすべてを硫黄島で行えない理由として、厚木基地と硫黄島との距離の問題、硫黄島の天候、飲料水の問題、施設整備の問題などの障害項目を挙げ、NLP全部の実施が困難と主張しています。



# やまと

大和市長 土屋隆保

市議会定例会は3月、6月、9月、12月と年4回あり、そのつど一般質問が3日間行われる。

6月の平成10年第2回定例議会では21人の議員から、行政全般にわたり質問を受けた。

朝9時から夕方まで、休憩はあるものの、議場の中に30人の議員と市側の我々(市長、助役、収入役、教育長、病院長、他各部長)がカンヅメ状態で、質問者である議員と答弁者である我々のやりとりを聞いている。これは実はたいへんすばらしい行政の政策実現の一つのステップなのである。

一種独特な議場という雰囲気の中で、市民の代表である議員と行政側が、一つひとつの質問や一つひとつの答弁で共通の認識を抱く。この議場の中の雰囲気、いわゆる空気が一体となって、時には感動を覚え水を打ったようにシーンとしたり、時にはドッを笑いが起こり議場が沸いたり、不思議な運命共同体のような連帯感が醸し出される。

市議会定例会といっても、議員同士が討論をする最終日や、各常任委員会、特別委員会など、それぞれその内容を異にする。いずれにしても市民の意見を行政に反映させる、いわば真剣勝負の場である。まだ傍聴に来られていないかたは、ぜひおいでいただきたい。

さて、一般質問の答弁は、わたしの政策を披瀝する場でもあるが、ほかにも多くの機会がある。この一般質問の3日間が終わると、いつもいくつかの講演や講話の予定、原稿依頼も2~3たまっている。

これらのすべてがデスク・ワークであり、弁舌での仕事であるため、体を動かし、汗を流すべく月に一日か二日休みを取る。案外、土、日に公務があるため、平日の休みとなる。

6月のある日、大山に登った。男坂で下社まで行き頂上で昼食の予定だった。しかし、16丁目の追分けあたりで、空腹になったので昼食にした。

下山途中の女性が「あら市長さん、土屋さんでしょ。いつもまほろば読んでいますよ」と声をかけてくださった。あいさつをするわたしの横で、「今日お休みをいただいたもので」と妻は反射的に言い訳じみたあいさつをしていた。

そのかたは足取りも軽く、「どうぞ食事を続けてください」と言いながら下山して行った。

思いがけない所で、大和の市民のかたから声をかけられるのはうれしいものである。

### おわびと訂正

6月1日号の文中3行目「西勝造であること」が「西勝造の友人」の誤りでした。おわびして訂正します。

硫黄島の管制塔



ます。具体的には、①硫黄島には本滑走路が1本しかないため、訓練中や長距離飛行後の緊急時には対応できないという問題について島内にある旧日本軍の飛行場跡地に新たに予備滑走路

を整備する。②宿泊施設が不足しているため多くのパイロットの受け入れができないという問題について、訓練期間中パイロットや家族が滞在できるよう更に宿泊施設を整備し、併せて福利厚生施設も充実させる。③機体整備体制がじゅうぶんではなく、緊急時に対応が困難という問題について、民間会社にNLP時に出向あるいは常駐させ体制を整備する。④訓練の移転に伴う燃料費や輸送費などの費用負担の問題については平成8年度から日米間の特



### Q7

この硫黄島活用案をこれまでどのように使いましたか。また、今後

別協定により、日本側の負担で対応されている。⑤孤島のため水が不足し、要員の受け入れが困難という問題については、現在、淡水浄化装置が稼働しており、雨水の利用と合わせほぼ解消している。このほかにも多岐にわたり具体的な解決策や提案を行い、訓練の硫黄島全面移転への取り組みを求めています。

### A

平成9年にこの硫黄島活用案を作成し、その後、関係者の理解を得るため、市議会はもとより神奈川県や周辺の各市に配布するとともに、直接アメリカ大使館や米軍司令官、更には国の基地関係の担当省庁である外務省や防衛庁、防衛施設庁などに持ち寄り、この活用案への理解を求めてきました。市では今後、引き続き、関係各方面に働きかけ、この硫黄島活用案への理解を求めるとともに、その実現に向けて取り組んでいきます。

どのように使っていくのですか。

厚木基地の航空機騒音などに多くの市民が悩まされている本市では、まず「航空機の騒音解消」、「NLPの硫黄島全面移転」、「デモンストレーションライトの中止」、そして最終的には、基地の全面返還」を目指し、米軍をはじめ国、関係機関に今後、強く働きかけていきます。「安全で静かな空をめざす」...

問い合わせは、市役所 基地対策課 ☎(60)53108。